

## ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）

(実施期間：平成 28～33 年度)

実施機関：宮崎大学（総括責任者：池ノ上 克）

## 取組の概要

本学は、平成 20 年度「女性研究者支援モデル育成」事業への採択を契機に、事業の中核を担う「清花アテナ男女共同参画推進室」を設置し、研究環境整備や意識啓発などの取組を継続しながら女性研究者比率向上や上位職登用促進に努めてきた。本事業では、新規の育児・介護支援等を取り入れつつ、これまでの取組では十分な成果を挙げるに至らなかった上位職登用を促進するために、女性活躍・人財育成担当理事の下、「Step by Step 方式」による人財育成の基盤づくり、「アテナプラン」による講師・准教授の上位職への昇任システムを機能させ、女性教員比率の向上と上位職への登用を進めることで行動計画に示した目標達成を目指す。

## (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	今後の進め方
A	a	s	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

## (2) 評価コメント

女性研究者の活躍促進や次世代育成における機関の課題を抽出、精査し、工夫を凝らした制度設計を行った。女性教員の上位職への登用が進んでいない自然科学系部局において、部局推薦により優れた女性教員の登用を図る「アテナプラン」を制度化するとともに、研究者を志す優秀な女子学生を特別助手として採用、研究者として育成する「Step by Step 方式」を構築したことは評価できる。また、九州・沖縄地区の女性研究者支援ネットワークの継続、発展を先導していることは評価できる。今後は、女性研究者比率 20%以上、女性教授・准教授 52 名の目標達成を目指し、これまでに構築した制度のより効率的な運用、さらなるポジティブ・アクションの展開を図ることを期待する。

- ・**目標達成度**：女性教員の科研費新規採択率の目標は達成できていないものの、研究環境整備、女性教員の採用比率及び在籍比率、「アテナプラン」や「Step by Step 方式」の制度設計と運用に係る目標はすべて達成しており評価できる。今後は、女性研究者の研究力向上を目指した新たな取組の立案を期待する。
- ・**取組**：学長裁量経費を活用し女性教員の上位職登用を進める「アテナプラン」、優れた女子学生を女性研究者へと育成する「Step by Step 方式」等、特色ある取組を意欲的に進めており高く評価できる。また、「子育てサポーター制度」や「研究補助者雇用制度」等の両立支援の取組、九州・沖縄地域の大学の「理事・副学長ネットワーク会議」の設立といった地域連携に係る取組は高く評価できる。
- ・**取組の成果**：「アテナプラン」により自然科学系 3 部局の優れた女性准教授 3 名を教授へと昇進させたことにより、自然科学系の全部局に女性教授を配置できたことは評価できる。また、当

該2名の女性教授が、部局のマネジメントに関わる工学部学科長、総合周産期母子医療センター長にそれぞれ就任したことは評価できる。「Step by Step方式」は運用が始まったばかりであり、今後の成果を期待する。

- **実施体制**：学長のリーダーシップの下、学長直下に理事（女性活躍・人財育成担当）・副学長を室長とする「清花アテナ男女共同参画推進室」を設置し、その傘下に全部局からの教員で構成される「女性研究者支援加速化プロジェクトチーム」を置き、事業を機関全体として順当に進める実施体制を構築したことは評価できる。また、機関内にとどまらず、九州・沖縄地区の教育・研究機関が一体となって女性研究者支援に取り組む体制の継続、発展に寄与していることは評価できる。
- **今後の進め方**：女性研究者を対象とした研究環境整備や研究力向上に係る取組を男性研究者へも拡充する計画であり、今後の展開が期待できる。補助期間終了後も一定の自主経費を確保するとともに、大学基金の男女共同参画支援への活用、地方自治体や地域企業を巻き込んだ教育・人材育成の推進を計画しており、取組の継続が期待できる。